令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【つばさ小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	①問題を発見・探究・解決する力 ②情報を活用する力 ③自ら学習を調整する力 ④協働して学習する力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	①単元や授業の始めに見通しを持つ時間を設定し、「問題→予想→見通し→解決」の思考の流れを身に付けさせる。 ②情報を読み取るための視点を全教科で共通のものとして指導する。 ③その時間のめあてをもたせ、めあてに対する振り返りをする時間を確保する。また、振り返りから次時のめあてを考えられるよう指導する。 ④ペアワーク・グループワークの後に、1人で考えを整理し他者の考えを取り入れる時間を設ける。 【①～④について、学年の実態に合わせて1学期より実施・毎時間】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	①国語、算数共に全体の平均正答率は県平均、全国平均を上回った。 ②国語では、大問1の3問全てで無回答率が0%だったが、大問3の4問全てで無回答率が県平均、全国平均を上回った。 ③文章を読み、下線部に続く文章を選択する問題で正答率50%を下回った。 ④文章を読み、空欄に入る内容を、集めた情報から抜き出して考えを記述する問題で正答率が50%を下回った。 ⑤算数では、1問を除き全ての問題で無回答率が県平均、全国平均を上回った。 ⑥異分母の分数の大小を判断する問題や、二次元の表から条件に合う数を読み取る問題で、正答率が低かった。 ⑦国語、算数共に解答時間について、「やや足りなかった」「全く足りなかった」と回答している児童が県平均、全国平均を上回った。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	国語・算数ともに平均正答率が県平均、全国平均を上回っていることから、基礎的・基本的な知識や技能は概ね定着していると考えられる。 また、学習内容を理解する力は一定程度身に付いており、授業で扱った内容については着実に習得できている児童が多いと推察される。 一方で、問題の種類によっては正答率や無回答率に大きな差が見られるため、知識・技能を活用しながら思考・判断・表現する場面に課題があると考えられる。 国語では特に、大問1では全問無回答率が0%であったことから、比較的短時間で解答できる問題や、答え方が明確な問題には意欲的に取り組めている一方で、大問3では全ての問題で無回答率が県平均・全国平均を上回っているため、「長文を読む必要がある」「複数の資料を関連付ける必要がある」「記述を求められる」といった問題に対して負担感を抱いている児童が多いと考えられる。 算数では特に、1問を除く全ての問題で無回答率が県平均・全国平均を上回っていることから、「考える時間が不足する」というよりも、「解き方が分からず途中で諦めてしまう」といった実態が考えられる。また、正答率は高いものの無回答率も高いことから、「できる児童とできない児童の差」が大きい可能性も考えられる。

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	アンケート結果から、4つの取組は全体として着実に推進されており、特に①及び③については約9割の教員が実践していると回答した。一方、②では約2割、④では約3割の教員が「十分に取り組めていない」と回答しており、とりわけ④については取組状況の個人差や実践上の課題が見られる。今後は、実践事例の共有や研修の充実を通して、教員が継続的・計画的に実践できる体制づくりを進め、B評価層をA評価へ高めることを目指したい。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上（達成） B 6割以上（おおむね達成） C 6割未満（あと一歩）